

アチーブメント RSS レーシング

全日本カート選手権参戦 Report

西地域第1戦琵琶湖スポーツランド

■開催日：3月28～29日 ■天候：雨のち曇り

■路面状況：ウェット ■参加台数：18台



終盤までトップを守る鮮烈デビュー 次戦以降に期待が高まる5位入賞！！

全日本カート選手権西地域第1戦が、3月28～29日に滋賀県・琵琶湖スポーツランドで開催された。

最高峰KFクラスへのステップアップを目指す若手ドライバーが多く集まるのが、東西両地域に分かれて開催される全日本選手権FS125クラスだ。今シーズン、このFS125クラスにアチーブメントRSSレーシングとして参戦。ドライバーは、15歳以下の選手たちによるジュニア選手権で、昨年のFP-Jrクラスチャンピオンを獲得した三澤拓真（15歳）を抜擢し、ドライバーの成長とレースでの好結果を目指す。

昨年までジュニアカテゴリーに参戦していた三澤は、ヤマハKTエンジン+SLタイヤというパッケージしか経験がなく、全日本で使用されるハイパワーの125ccエンジン、さらにはハイグリップタイヤはまったく初めての経験となる。本来は近似したパッケージの地方選手権を経て全日本へと昇格する選手が多い中、ジュニアチャンピオンとなった三澤は、チャンピオンだけに許される特進による昇格で全日本参戦が実現した。

大会当日は、土曜日までの好天がうってかわった雨模様。朝のタイムトライアル前には本格的な雨も降り出し、三澤はぶっつけ本番でハイグリップレインタイヤを使いレースに臨むこととなった。

タイムトライアル (47.721 / 8位)

直前の公式練習では4番手タイムだった三澤

は、コースオープンから時を置かずに出走。直前に雨脚が強まった難しいコンディションの中で果敢なアタックをみせたものの、8番手に終わる。予選は4列目スタートとなった。

予選ヒート (16周 / 2位)

午前中最後のプログラムとなった予選ヒートは16周。スタートを無難に決めると、バックストレートエンドの2コーナーで、周囲の混乱を上手にかわしトップに浮上。そのままオープニングラップを終える。その後も後続を従えながら周回を重ね、10周目までトップをキープ。最後は2番手にポジションを下げたものの、そのままの順位をキープしてチェッカーを受け、決勝フロントローを獲得した。

決勝ヒート (26周 / 5位)

予選よりさらに10周長い26週の決勝ヒート。雨は決勝スタート30分ほど前には止み、路面コンディションはハーフウェットではあるものの回復傾向。タイヤ選択も悩ましい局面だったが、路面の回復が遅いと判断しレインタイヤでグリッドへ並ぶ。

スタートではポジションキープのまま1コーナーをクリア、インフィールドに入った4コーナーで思い切ってインに飛び込みトップを奪う。一時はコンマ8秒ほどのリードを確保するが、徐々に路面が回復し、タイヤに厳しくなってくると、後続も接近。それでも、トップをキープ。15周過ぎには2番手が直後まで迫り、幾度か仕

掛けられて先行されても、すぐに抜き返すなど果敢なファイトを見せる。最後はややタイヤも苦しくなったか、順位を下げたが、ルーキーとしては上々の5位フィニッシュで開幕戦を終えた。

なお、同系チームのTAKAGI PLANNINGより出場した宮下源都は、タイムトライアルでトップタイムをマーク。予選はスタート直後の混乱で大きく順位を落とし11位フィニッシュとなったものの、決勝は11番グリッドから追い上げ、最後は3位フィニッシュで表彰台を獲得した。

Driver's Voice



三澤拓真

タイムトライアルはあまり良くなかったですが、その後の予選ではトップを走れたので良かったです。決勝は途中までトップを走っていましたが、路面が回復してレインタイヤの消耗が進んでしまい、苦しいところ

もありました。そのあたりのマネージメントは、もっと改善できることはあるなと思ったので、次回の第2戦には改善して優勝できるように頑張りたいです。今回、トップを走れたことは、自信につながり手応えも得られました。次回にはもう少し成長して臨みたいです。今回の参戦に当たり、サポートして頂いたスポンサーの方々に感謝いたします。

高木虎之介監督

全日本で使用するハイグリップタイヤは未経験で、ましてやウェットタイヤでは練習する機会がなかったため、今日のレース本番が初めての走行となったが、その条件でもトップ走ってくれたのは良かった。昨年までのKTカテゴリからいきなり全日本に昇格し、ここまで走ってくれば今後が楽しみだ。

雨が降ったりあがったりと路面状況は難しかったが、その中でも2年目の選手や勝った選手と互角に戦えるのを示してくれた。これから、まだまだシーズンも長いので、今回は上出来の結果だと思う。

ただ今回は雨だったので体力も大丈夫だったようだが、去年のジュニアとはまったく違うハ

イグリップタイヤで、これからシーズンが本格化し、コンディションもドライとなればもっと体力面も厳しくなる。集中してトレーニングに取り組み、次回の中山大会に臨んでもらいたい。

今回のチーム結成、全日本参戦に当たり多くのスポンサーの方々からご支援を頂きましたことを、改めて感謝いたします。

RESULTS

Pos.	No.	Driver	Team	Frame	Engine	Tire	Q.P.	Q.H.
1	7	三宅淳詞	A TEAM Motorsport	CRG	IAME	BS	47.768 10	5
2	8	丹澤慧斗	Tech Miyazawa Snap-on motorsport	KOSMIC	IAME	BS	47.704 7	4
3	20	宮下源都	TAKAGI PLANNING	EXPRIT	IAME	BS	47.155 1	11
4	23	環 優光	T.EMATY	TONYKART	IAME	BS	47.673 6	3
5	21	三澤拓真	アチーブメント RSS レーシング	EXPRIT	IAME	BS	47.721 8	2
6	14	小林一景	Mad-Croc Karting	MAD-CROC	IAME	BS	47.849 11	10
7	16	廣岡陸勢	トレンタクワトロ	MARANELLO	IAME	BS	48.164 15	9
8	12	東 拓志	INTREPID JAPAN	INTREPID	IAME	BS	47.599 3	6
9	13	富田自然	Tech Miyazawa Snap-on motorsport	KOSMIC	IAME	BS	47.560 2	1
10	17	佐藤巧望	INTREPID JAPAN	INTREPID	IAME	BS	47.757 9	8

ポイントランキング

Pos.	Driver	有効	累計
1	三宅淳詞	31.0	31.0
2	丹澤慧斗	29.0	29.0
3	環 優光	26.0	26.0
4	三澤拓真	25.0	25.0
5	富田自然	22.0	22.0
6	宮下源都	20.0	20.0
7	東 拓志	18.0	18.0
8	廣岡陸勢	16.0	16.0
9	小林一景	15.0	15.0
10	門岡一義	4.0	4.0

全日本カート選手権 FS125 クラスについて

全日本選手権は最高峰クラスに位置づけられる KF クラスが全国统一シリーズで開催されているのに対し、KF へのステップアップを目指す選手が主体となる FS125 クラスは、日本を東西に分割し、それぞれの地域で5戦ずつを消化。その後、東西両地域の選手が集まり、東西統一最終戦が開催され、すべての大会での獲得ポイントから有効ポイントを合算しチャンピオンを競う方式を採用しています。今季の日程は下記の通りです。和歌山県出身の三澤は西地域シリーズに参戦し、シリーズチャンピオンを目指します。

【全日本選手権西地域開催日程】

第1戦	3月29日	琵琶湖スポーツランド（滋賀県）
第2戦	5月17日	中山カートウェイ（岡山県）
第3戦	6月28日	フェスティカサーキット瑞浪（岐阜県）
第4戦	8月2日	オートパラダイス御殿場（静岡県）
第5戦	8月30日	神戸スポーツサーキット（兵庫県）
東西統一最終戦	10月18日	鈴鹿サーキット国際南コース（三重県）

アチーブメント RSS レーシングチーム



監督：高木虎之介
 ドライバー：三澤拓真
 メカニック：岡本康裕
 使用マテリアル
 CHASSIS：EXPRIT
 ENGINE：IAME Parilla X30
 TYRE：BRIDGESTONE
 ※エンジン&タイヤは主催者指定のワンメイク制